

令和4年度 第2回 地域メディア連携協議会

住民の理解と自らの行動につなげるための情報発信についてメディア機関と共有・連携

今年の出水期が終わり、今後本格的な冬季風浪シーズンをむかえるにあたり、住民へのより効果的な情報伝達を行うため、道路に関する雪害対策の説明会とあわせて、第2回地域メディア連携協議会を開催しました。

金沢地方気象台からは今年発生した線状降水帯の解説や、今後の気象の動向についての情報提供、金沢河川国道事務所からは石川海岸における冬季風浪時の水防活動等の取り組みや情報取得方法について説明し、令和4年8月豪雨に関する情報提供を行いました。



第2回 地域メディア連携協議会の概要

- 日時 令和4年11月18日(金) 10:00~11:30
- 場所 金沢河川国道事務所 2階会議室(Web会議併用)
- 参加団体【行政機関】
金沢河川国道事務所(事務局)、石川県、金沢地方気象台【メディア機関】
北陸放送、石川テレビ放送、北國新聞社、北陸中日新聞、エフエム石川
- 議事次第
・情報提供
(1)金沢地方気象台
(2)金沢河川国道事務所
・意見交換



各機関からの主な意見

- ・災害報道の伝え方について、災害後あまり時間をおかずに行政とメディアで課題を議論する場を設けた方が良い。
- ・ラジオではドライバーを意識しており、文字で伝えるのでは無いため耳からの情報では、地名等の読み仮名の正確性が重要。行政側が情報発信する際にはルビを付けて欲しい。
- ・昨年度実施した「現地視察会」が今年の洪水の際に知識として活かされたため、とても良い取り組みであった。
- ・記者会見は切迫した状況を伝えることが重要であることを踏まえると基本的に対面が良いが、緊急時は移動時間なども考えると、Web会議と併用が望ましい。